

【慣用句】 30期秋季選考会 資料集

- 【愛嬌をふりまく】にこやかで、かわいらしいこと。×「愛想をふりまく」
- 【青田買い】企業が人材確保のため、採用を早くから内定すること。×「青田刈り」
- 【命の洗濯】日ごろの苦労や束縛などから解放されて、のびのびと気晴らしをすること。
- 【いやがうえにも】いよいよ、ますます
- 【牛に引かれて善光寺参り】他人の誘いや思いがけない偶然で、よい方面に導かれること。
- 【鵜の真似をする烏】自分の能力を考慮しないで人の真似をすると失敗するという戒め
- 【鴛鴦（えんおう）の契り】夫婦仲は極めて睦まじいことのたとえ
- 【おくびにも出さない】心に秘めて、一言も触れず素振りにも見せない。おくびはげっぷのこと
- 【お先棒を担ぐ】何かをする時にすぐに加担する者、手先になって使われる者のこと
- 【おっとり刀】急な場合に腰に差す間もなく、刀を手にする事。大急ぎで駆けつける。
- 【同じ穴の貉】一見関係がないようでも実は同類・仲間であることのたとえ。
- 【おもむろに】ゆっくりと
- 【隗（かい）より始めよ】また、物事は言い出した者から始めよというたとえ。何事も手近な所から着手することが良い事
- 【刀折れ矢尽きる】物事に立ち向かう手段が尽きることのたとえ。
- 【割愛する】惜しいと思うものを手放す、という意
- 【株を守りて兎を待つ】偶然の幸運を当てにする愚かさ。古い習慣にとらわれて、時の変化に適応しないこと。
- 【気が置けない】気づかひする必要がない。遠慮がいらぬ
- 【聞きしに勝る】聞いて予想していた以上に程度がはなはだしい。
- 【雉も鳴かずば撃たれまい】余計なことを言ったばかりに、自ら災いを招くことのたとえ
- 【桐壺源氏】中途半端でいかげんな学問や教養のたとえ。
- 【逆鱗に触れる】君主や目上の人を激怒させること。
- 【糊口をしのぐ】やっと暮らしを立てること。「内職をして一ぐ」
- 【小鼻を膨らませる】不満そうにするさま
- 【采配を振る】陣頭に立って指図をする。×采配を振るう
- 【潮時】ちょうど良い時
- 【失笑する】こらえきれず吹き出して笑う
- 【鹿を追う者は山を見ず】目先の利益を追っている者は、それ以外の事が見えなくなり道理を忘れてしまう事
- 【焦眉（しょうび）の急（きゅう）】非常に差し迫った危険、問題を抱えていること。
- 【白羽（しらは）の矢が立つ】多くの 中から犠牲者として選出される。また、一般に多くの中から特に選出される。

- 【水魚の交わり】(魚が水と離れられないように) 大変仲の良い関係のこと。
- 【雀、百まで踊り忘れず】幼い時に身につけた習慣や若い時に覚えた道楽は、幾つになっても直らないということ。
- 【寸暇(すんか)を惜しんで】わずかの間でも、無為に過ごすことを勿体ないと思ひ、物事に没頭するさま。
- 【大山鳴動して鼠一匹】大騒ぎしたわりには、実際には結果が小さいこと。
- 【高(たか)をくくる】大したことはないと見くびる。高=合計額
- 【中原(ちゅうげん)に鹿を逐(お)う】ある地位や目的物を得ようとして競走する。
- 【角(つの)を矯(た)めて牛を殺す】小さな欠点を無理に直そうとして、かえって全体をだめにするこのたとえ。
- 【詮無い】甲斐がない 何かしても報われない
- 【一【等閑(とうかん)に付す】かえりみないで放っておく。なおざりにする。
- 【鳥なき里の蝙蝠(こうもり)】優れた者がいないところでは、つまらぬ者が威張っているこのたとえ
- 【虎の威(い)を借る狐】権勢を持つ者に頼って、威張る小者のこと。
- 【生(な)さぬ仲】血のつながりのない親子の間柄
- 【二の句が継げない】あきれたり驚いたりして、次に言うべき言葉を失う。
- 【二の足を踏む】思い切れずに迷う。ためらう。
- 【人間万事塞翁(さいおう)が馬】人生における幸不幸は予測しがたいということ。
- 【伸(の)るか反(そ)るか】成否は天にまかせ、思い切って物事を行うこと。一か八か。
- 【掃き溜めに鶴】つまらない者の中に飛びぬけて優れた者や美しい者がまじっていること。
- 【必要に迫られる】やらなければいけない状況になる
- 【一廉(ひとかど)の人物】他よりもひとときわ優れている人物
- 【暇を持って余す】時間はあるが何もする事がなく、退屈なさま
- 【二つ返事】快く承知すること。「はい、はい」とためらわず、すぐ承知すること
- 【噴飯もの】(おかしくて食べかけのご飯を吹き出してしまうことから) おかしくてたまらないこと
- 【仏作って魂入れず】物事をほとんど仕上げながら、肝心な最後の仕上げが抜け落ちているこのたとえ。
- 【骨身を削る】体がやせ細るほどに努力し苦労する。
- 【間尺(まぢ)が合わない】計算が合わない、割に合わない
- 【六日の菖蒲(あやめ)、十日の菊】時機に遅れて役に立たないこのたとえ。
- 【役不足】その人の力量に対して、役目が不相応に軽いこと
- 【藪(やぶ)を突いて蛇(へび)を出す】(=やぶ蛇) 余計な事をして、かえって悪い結果を招く事。
- 【夜も日も明けない】それが無いといつときたりとも過ごすことができない。
- 【破(わ)れ鍋(かま)に綴(と)じ蓋(ふた)】どんな人にも、ふさわしい配偶者がいるものだという事